

平成23年3月期 第2四半期 会社説明資料

平成22年12月

株式会社プラコー

(JASDAQ スタンダード : 6347)

平成22年9月末現在

商号 株式会社 プラコー

本社 埼玉県さいたま市岩槻区笹久保新田550番地

代表者 代表取締役社長 秦 範男

設立 昭和35年8月

資本金 1,332百万円

売上高 2,430百万円 (平成22年3月期実績)

従業員 72名

昭和35年8月	プラスチック工業(株)を創立（資本金100万円）
昭和36年8月	埼玉県川口市に新工場を建設、押出機及びブロー成形機を本格的に生産開始。
昭和42年10月	東京都港区に本店を移転。
昭和45年5月	埼玉県岩槻市（現. 埼玉県さいたま市岩槻区）に浦和工場を新設。
昭和47年1月	商号を株式会社 プラコーと改称。
昭和47年11月	埼玉県川口市に本店を移転。
昭和48年2月	日本証券業協会に店頭売買銘柄として登録。
昭和48年11月	株式額面変更の為、江東機工株式会社と合併。
昭和55年5月	プラコーエンジニアリング(株)設立（機械部品加工会社、平成18年4月吸収合併）
昭和62年7月	静岡県掛川市に工場用地を取得。
昭和63年7月	埼玉県岩槻市（現. 埼玉県さいたま市岩槻区）に本店を移転。
平成3年5月	静岡県掛川市に掛川工場を新設。
平成7年1月	(株)プラコーテクノサービス設立（メンテナンス会社、平成18年4月吸収合併）
平成9年4月	リサイクル装置の生産、販売に本格参入し、リサイクル元年とする。
平成13年3月	埼玉県の彩の国指定工場に認定される。
平成16年12月	(株)ジャスダック証券取引所に上場。
平成18年4月	4月1日付けをもって連結子会社2社を吸収合併
平成20年5月	富拉鑫股份有限公司(台湾)設立。(機械製造会社)
平成21年5月	富拉鑫股份有限公司(台湾)解散。
平成22年4月	株式会社大阪証券取引所へ上場。（旧株式会社ジャスダック証券取引所）

(1) インフレーション成形機事業

当部門においては、フィルム製品（レジ袋、ゴミ袋、農ポリ、ラップ、多層、機能）を成形する為のインフレーション成形機を製造及び販売しております。

(2) ブロー成形機事業

当部門においては、中空製品（自動車部品、工業用部品、日用雑貨品）を成形する為のブロー成形機を製造及び販売しております。

(3) リサイクル装置事業

当部門においては、環境保全の一環でありますリサイクル装置（破碎機、再生機、再生品成形）を自社技術と一部を海外メーカーとの提携による技術によって製造及び販売をしております。

(4) メンテナンス事業

当部門においては、機械メンテナンス及び部品の販売を行なっております。

平成23年3月期 第2四半期 決算概要

株式会社プラコー

(JASDAQ スタンダード : 6347)

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、先進国の経済回復が遅れ、同時不況の影響と円高の進行や株安の影響もあり、引続く景気の低迷や雇用環境の悪化、設備投資の減少など全体的に厳しい状況でありました。

当社の関係するプラスチック加工業界及び環境関連においては、一部に新機能、新分野商品の引合いはあるものの、全体的には景気の低迷、自動車関連設備投資の減少と新興国への工場移転など、厳しい経営環境にありました。

このような状況下、営業面では、引続いて新機能、新分野商品及び新規の受注に向けて社内展示会を開催するなど全社挙げて活動致しました。また、生産面では、引続きコスト低減と商品適正品質の維持、生産性の向上に努めました。さらに、外部委託業務の内製化など、固定費についても更に削減を進め実効をあげることができました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は、一部機械の検収のずれがあったものの、受注増加により、1,201百万円と前年同四半期と比べ164百万円増（前年同期比15.9%増）となりました。また、当第2四半期累計期間については、売上高が増加し、コスト削減及び固定費の減少などにより損益分岐点が改善されたことから、営業利益25百万円（前年同期は営業損失77百万円）、経常利益10百万円（前年同期は経常損失97百万円）、四半期純利益7百万円（前年同期は四半期純損失105百万円）となり、前年同期に比べ損益は大幅に改善されました。

損益計算書（非連結）

（単位：百万円）

	21年3月期 第2四半期	22年3月期 第2四半期	前期比	備 考
売上高	1,036	1,201	164	① 多層インフレーション成形機の増加 ② 省エネルギー押出機、高性能・自動化単独機器などの増加 ③ 自動車部品用生産機、日用品成形機、容器成形機などのブロー成形機の増加
売上原価	829	915	86	
販売費及び一般管理費	284	259	△ 24	① 人件費減少 15 ② 研究開発費減少 8
営業利益	△ 77	25	103	
営業外収益	5	4	△ 1	
営業外費用	25	19	△ 5	支払利息減少
経常利益	△ 97	10	107	
特別利益	1	—	—	
特別損失	5	—	△ 4	
法人税、住民税及び事業税	3	2	—	
当期純利益	△ 105	7	112	

貸借対照表（非連結）

(単位：百万円)	21年3月期 第2四半期	22年3月期 第2四半期	増 減	備 考
流動資産	680	922	242	売上債権の増加
固定資産	793	765	△ 27	減価償却費 29
繰延資産	5	8	3	株式交付費
資産合計	1,479	1,697	218	
流動負債	1,054	1,088	33	支払債務の増加及び短期借入金の減少
固定負債	592	566	△ 26	長期借入金の減少
負債合計	1,647	1,655	7	
資本金	1,252	1,332	80	第三者割当 80
資本剰余金	50	131	80	第三者割当 80
利益剰余金	△ 1,594	△ 1,530	64	
自己株式	△ 5	△ 5	—	
株主資本合計	△ 297	△ 71	225	
評価・換算差額等合計	128	113	14	
純資産合計	△ 168	42	210	
負債純資産合計	1,479	1,697	218	

キャッシュ・フロー計算書（非連結）

(単位：百万円)	21年3月期 第2四半期	22年3月期 第2四半期	比較増減	備 考
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 45	△ 15	29	売上債権及びたな卸資産の増加
投資活動による キャッシュ・フロー	276	△ 2	△ 278	前期 定期預金の減少
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 311	△ 28	282	長期借入による収入 186
現金及び現金同等物の 増減額	△ 80	△ 46	33	
現金及び現金同等物の 期首残高	154	85	△ 69	
現金及び現金同等物の 期末残高	74	39	△ 35	

(単位：百万円)

部 門	21年3月期第2四半期		22年3月期第2四半期		比較増減	
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	増減率
インフレーション成形機事業	596	57.6%	705	58.7%	109	18.3%
ブロー成形機事業	178	17.2%	293	24.4%	114	64.3%
リサイクル装置事業	116	11.2%	39	3.3%	△ 77	△ 66.3%
メンテナンス事業	144	14.0%	162	13.6%	18	12.6%
合 計	1,036	100.0%	1,201	100.0%	164	15.9%

インフレーション成形機事業

多層インフレーション成形機に加え省エネルギー押出機、高性能・自動化単独機器など増加。

ブロー成形機事業

自動車部品用生産機、日用品成形機、容器成形機など増加。

リサイクル装置事業

廃プラスチックの取引価格の乱高下と景気後退によるリサイクル装置の設備投資の減少。

メンテナンス事業

補修部品や工事等の受注増加。

平成23年3月期 業績予想

株式会社プラコー

(JASDAQ スタンダード : 6347)

業績予想（非連結）

（単位：百万円）	22年3月期	23年3月期 （予想）	増減
売上高	2,430	2,620	189
経常利益	△ 42	33	75
当期純利益	△ 48	27	75
EPS（円）	△ 3	1	4
ROE（%）	—	—	—

EPS＝1株当たり当期純利益

ROE＝自己資本利益率

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

経営方針

当社は、インフレーション成形機及びブロー成形機などのプラスチック成形機各種と、環境リサイクル機器の製造、販売を主たる業務として、社会生活の向上と環境保全に役立つ商品を提供することによって、社会に貢献すると共に、適正利益の確保と企業の発展を目指し、さらには、株主への適正配当と従業員生活を安定、向上させることを基本方針としております。

今期の取り組み

（販売促進施策）

- ① 太陽光発電フィルム用インフレーション成形機、環境に優しい全電動ブロー成形機、小型自動二輪車に搭載する4種6層燃料タンク用ブロー成形機など時代を先取りした新技術に係る新商品の開発、改良と販促
- ② 社内展示会における新商品紹介
- ③ 業界新聞、雑誌上での新商品紹介
- ④ 商社との連携による新興国市場の再獲得
- ⑤ 部品、メンテナンス工事の受注拡大努力

（生産コストダウン施策）

- ① 設計面からの過剰仕様、過剰品質の削除
- ② 正確なコスト分析によるリーズナブルな仕入コストの設定
- ③ 海外調達、海外生産の拡充
- ④ 生産システムの見直しと改善による生産コストダウン

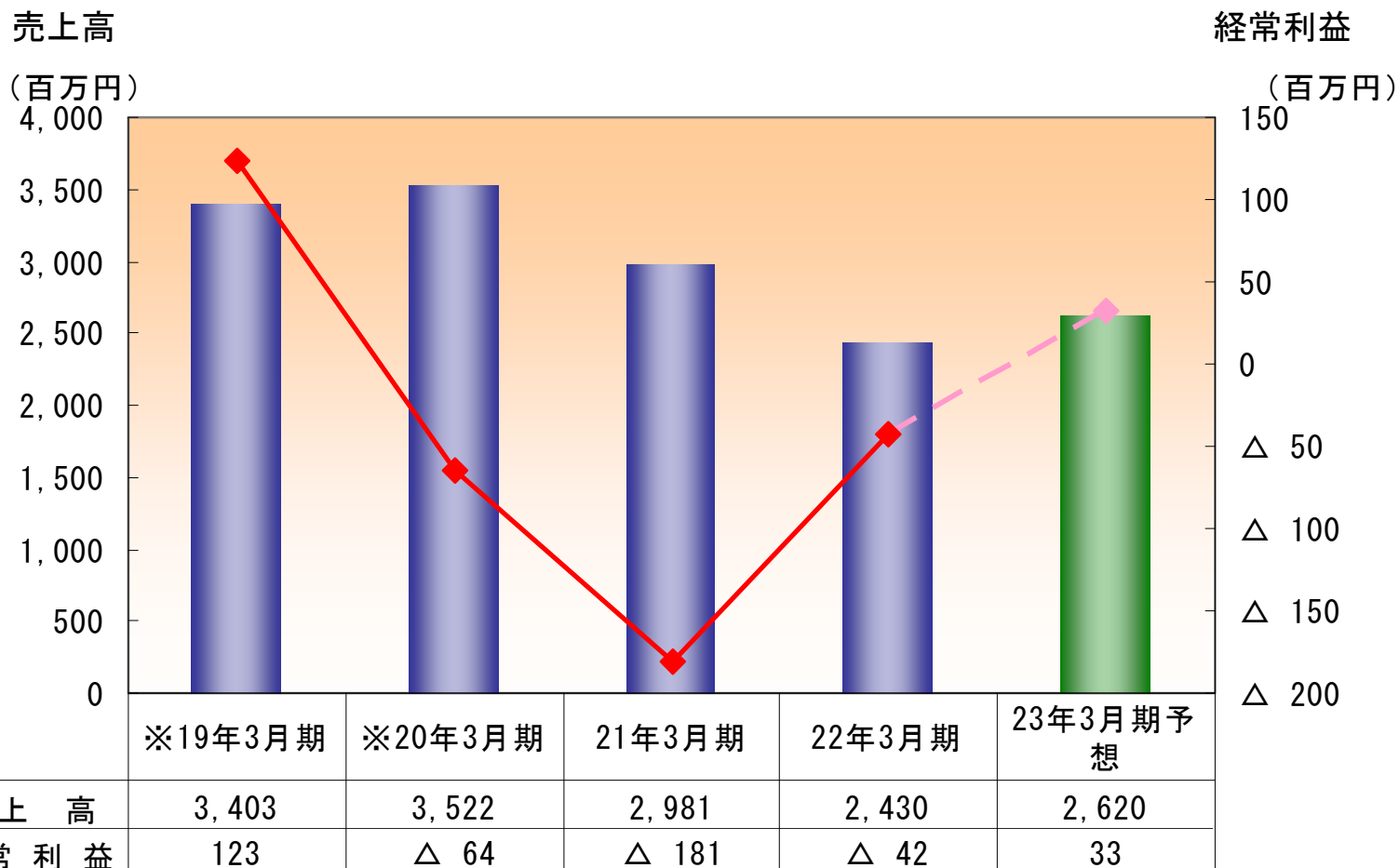
（固定費削減施策）

- ① 労務費の削減
- ② 一般諸経費の見直しと削減
- ③ 月次固定費を限界利益以内に抑えることを目指す

（資金調達の安定と拡大）

- ① 売上代金回収の徹底
- ② 適正資金調達のための銀行借入の実行
- ③ 信用状取引の復活
- ④ 手形割引枠の拡大

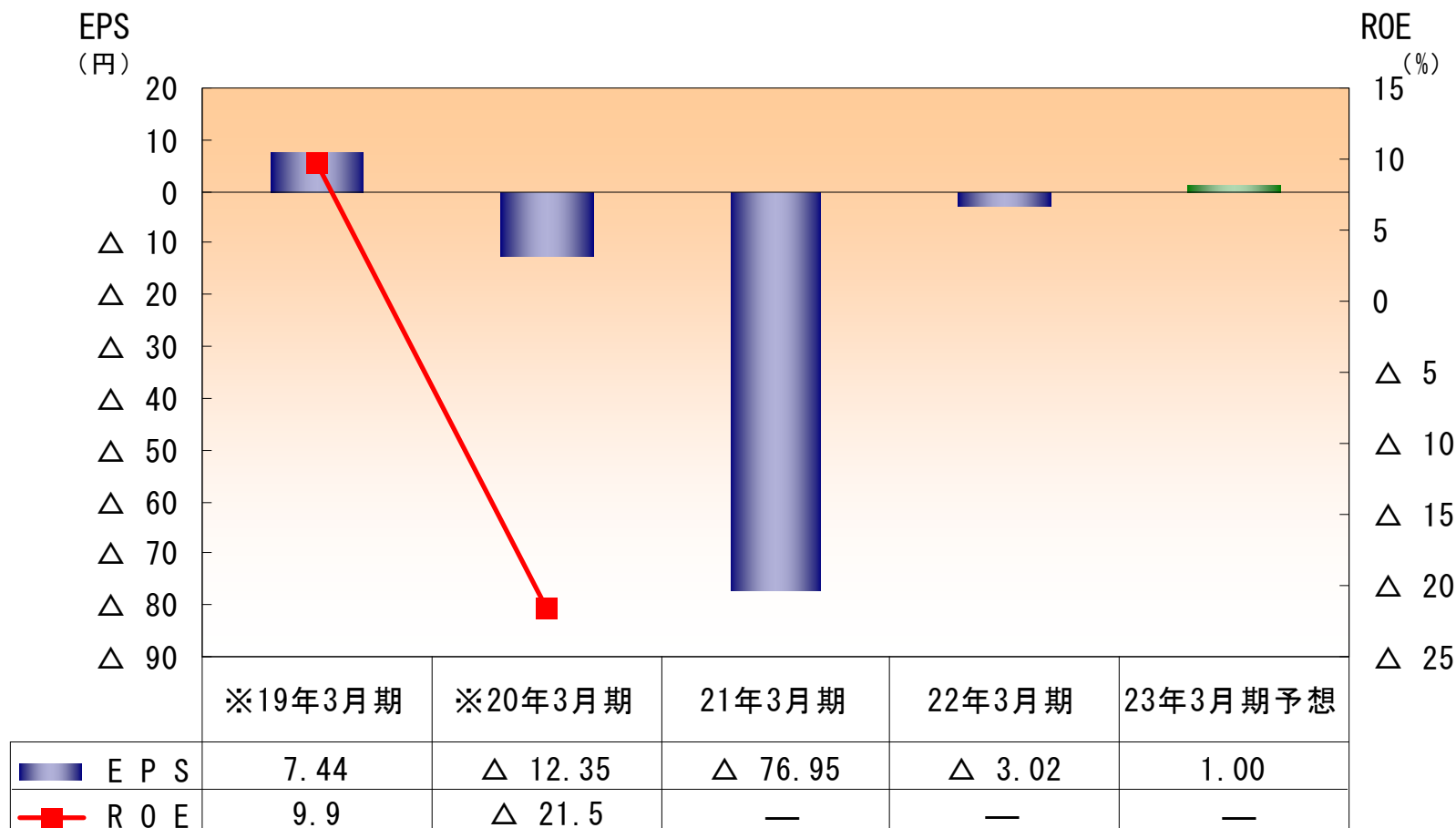
売上高・経常利益の推移（非連結）



※19年3月期、20年3月期は、平成20年9月26日及び29日に訂正報告書提出後の数値です。

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

EPS・ROEの推移（非連結）



※19年3月期、20年3月期は、平成20年9月26日及び29日に訂正報告書提出後の数値です。

EPS=1株当たり当期純利益

ROE=自己資本利益率

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

 株式会社プラコー

会社名 : 株式会社 プラコー

担当部: 経理部

T E L : 048-798-0222